

スマート農業が集落を動かす

要約

高齢化による農業の担い手不足は不十分な農地管理や、耕作放棄地の増加、集落機能の低下、景観の悪化等の要因となっている。そこで、五條市の中山間地域の集落において、協議会を立ち上げ、スマート農業等の省力化技術を検証し、持続可能な中山間の集落営農モデルについて検討した。集落営農設立の意向が芽生え始めた集落や既存の営農組合等で構成された協議会は、より一層の集落営農の推進を図るため様々な取り組みを行った。

現状(背景)と課題

- ・五條市丹原地区にて集落営農の組織化に合意
→営農組合を発展させ法人化を推進するための支援及び共同作業等の技術支援が必要(営農組合「丹生の里」)
- ・管内集落における組織化合意に向けた話し合い
→集落の農地を維持するため、住民の合意形成に基づく集落営農の組織化を支援する必要がある。
(1集落合意・五條市六倉町)

目標

- ・「丹生の里」法人化等合意形成及び共同作業の定着(2取組)
- ・集落営農の組織化に合意
2集落

活動内容

- ・スマート農業技術の実証(水稻作業の効率化)を通じて省力化技術の導入を推進するとともに、集落営農の組織化及び法人化等に向けた合意形成を支援
- ・共同作業による、水稻の育苗や高収益作物(業務用タマネギ)の栽培について技術指導を実施

成果

- ・営農組合「丹生の里」では、法人化に向けた合意形成が得られた。また、水稻共同育苗及びタマネギ共同栽培が定着した。
- ・管内集落において、スマート農業技術の実証、集落説明会、アンケート調査等を行ったところ、五條市六倉町及び三在町の2集落で組織化の合意に至った。



五條市集落営農スマート農業推進協議会



GPS 直進田植機



ドローンによる農薬散布



スマホ連携型水位センサー



営農組合「丹生の里」役員会

南部農林振興事務所農業普及課
 担当：担い手・農地マネジメント係
 堀野・長城
 農産物ブランド推進係
 辻本
 スマート農業総合推進対策事業
 (次世代につなぐ営農体系確立支援事業)

普及活動のポイント

- ・営農組合「丹生の里」では、役員会で法人化に向けた働きかけを行うなど、効率的な普及活動を心がけた。
- ・スマート農業技術の実証展示を行うことで、集落の営農モデルの検討につなげ、各集落の水田維持に関する将来像をイメージしてもらった。

対象の変化

- ・丹生の里では、集落営農組織の法人化について合意に至った。また、共同作業を通じて新たに直売所出荷が始まるなど組合が活気づいてきた。
- ・集落営農に向けて芽生え始めた五條市六倉町及び三在町でスマート農業技術の実証展示や集落説明会等の会合を重ねることで、組織化に向けて合意に至った。

対象者からのコメント

- ・営農組合設立から2年が経過し、普及がコーディネーター役として関わることで、法人化に向けた合意形成に至った。(丹生の里)
- ・スマート農業の実証展示では、将来の水田維持について集落で話し合う良い機会となり、組織化に向けた合意のきっかけとなった。(五條市六倉町)

これからの活動ビジョン

- ・引き続き、集落営農に向けた組織化及び運営支援に関する助言・指導を行い、集落営農の推進を図る。
- ・各集落にあった水稻の省力化技術体系を提案し、持続可能な水稻経営を目指し、集落機能の維持を図る。

活動体制



用語解説

スマート農業

ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業